

障害者支援施設 皆生やまと園

令和6年度事業報告

1 基本方針

「尊厳の保持」をサービス提供の基本とし、利用者が健康で生きがいを持ち、安心して生活できるように支援を行うとともに、地域生活への移行を積極的に推進する。

また、地域住民などとの連携強化や情報公開等による透明性の確保を図り、真に地域に信頼される施設となるように努める。

2 利用者の状況（令和7年3月31日現在）

（1）入所者状況 （人）

利用人数		前年度末利用者数	令和6年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
			入所人員	退所人員	退所理由別					死亡			
					GH	アパート等	家庭復帰	施設移管	契約解除(入院等)				
生活介護	40	43	2	3	0	0	0	1	2	0	10,267	95.1%	42
施設入所支援	40	40	1	2	0	0	0	1	1	0	14,328	98.1%	39
5年度	生活介護	40	42	4	3	0	0	1	2	0	10,186	94.7%	43
	施設入所支援	40	39	4	3	0	0	1	2	0	14,014	96.0%	40

（2）障害支援区分

①生活介護 （人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	2	6	14	22
女性	0	0	0	1	6	7	6	20
計	0	0	0	1	8	13	20	42

②施設入所支援 （人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	2	5	13	20
女性	0	0	0	1	5	7	6	19
計	0	0	0	1	7	12	19	39

3 事業の実施状況

（1）生活支援の充実

ア ユニット体制での生活支援をすることにより、家庭的な雰囲気を提供できるよう努めた。

季節を感じられるような飾り付けや行事を実施した。

イ 利用者の希望をくみ取り、課題を把握し、適切な支援を提供することにより自立した生活を実現させていくという支援の基本的な姿勢を共通意識として支援を行った。

ウ 利用者の重度高齢化への対応は年々深刻になっている。職員の介護技術の平準化に取り組むとともに、適切な時期での利用者の移管についても併せて検討している。

（2）日中活動の充実

日中活動を利用者の特性等に合わせて2班に分け、次のとおり充実を図った。

ア 強度行動障がい者に対し医師等と連携を取りながら専門的な支援を提供し、行動障がいのある者が混乱なく穏やかに生活が送れるよう支援した。

- イ 健康・運動機能の維持や向上を目的とした活動を行った。身体機能低下防止を図るため、月1回作業療法士による利用者の身体機能の評価の実施及びその評価に基づいた機能訓練の指導を受け、日々の活動時に実践した。
 - ウ 外出について特別な規制もなく、以前と同程度まで頻度が回復した。やまと園祭についてもコロナ禍後初めて家族を招いて実施した。今後も社会状況等をふまえて正常な毎日を送れるよう予防と配慮を継続していく。
 - エ 日中活動のあり方について検討をした。現在の利用者の特性や能力に合わせた班編成から意思決定支援の充実を目標に、利用者が日々の過ごし方を選択できる体制作りを目指している。来年度より実施予定である。
- (3) 虐待に繋がらない環境づくり
- ア 発生した虐待事案に対しての検証と改善を行った。職員への聞き取りと事案の周知を行うとともにマニュアルの見直し、障がい者虐待や個人情報保護についての研修の実施等をおおして職員それぞれの支援の振り返りを行い、改めて利用者への虐待に対する意識の向上を施設全体で行った。
 - イ ストレスチェックの結果を共有し、施設全体の傾向と問題について確認をした。実際に休養した職員もおり、心身に不調をきたしている職員の潜在的な数は増えている。不調な職員に寄り添うとともに働きやすい環境づくりに努めた。
- (4) 地域との交流
- 地元自治会の活動も縮小傾向にあり、地域行事を通じての交流を行う機会が少ないが、地域貢献活動としてゴミ拾いを実施したり、福生東公民館祭に作品を出展をした。自治会への機関誌の回覧による情報提供等をおおして障がい者に対する理解や啓発を進めた。
- (5) 経営改善・基盤の確立
- ア 今年度は病院からの入所が1名、退所者2名（入院1名、施設移管1名）であった。高齢化による老人施設への移管対象者が増えているが、新規入所希望者は行動障がい有している方が多く、環境調整が難航し入所が遅れることが課題となっている。
 - イ 短期入所については3名の新規利用者があった。強度行動障がい者等の専門的なケアが必要な利用者からの希望が多く、緊急受入れとなる場合もあるため対応が難しいが、地域ニーズとして求められているものでもあるため、今後も積極的に受け入れを行っていく。
 - ウ 3月末に退所が1名あり、定員40名に対し在籍者39名となったが、長期入院や感染症の流行も少なく安定した稼働率で推移した。生活介護については外部利用者が少ない点が移転からの課題となっている。相談事業所等と連携し、地域からの利用を促進したい。
 目標稼働率：生活介護94.0%、施設入所支援94.0%、短期入所41.0%
 実施稼働率：生活介護95.1%、施設入所支援98.1%、短期入所29.4%
- (6) 皆生みどり苑との連携推進
- 皆生みどり苑と行事予定等の情報共有を行うとともに、公用車を共用で使用する等、効率的な運営に努めた。また消耗品など共同契約が可能なものは共同で行い、業務委託契約についても両施設で検討して共同化を図り、事務手続きの軽減及び経費節減に努めた。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取短期大学	5.6.8.9.10.11月	5人	55人
米子養護学校職員	8月	3人	5人
鳥取県新規採用職員	7.8月	2人	4人
鳥取大学医学部	10月	2人	2人
鳥取大学大学院医学系研究科	9月	10人	10人
計		22人	76人

(2) ボランティアの受入実績

やまと園祭ボランティア 5 人、施設コンサート 1 人 (延 6 人)

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 2 名

(2) 日中一時支援事業 定員 空床利用 (主な受入市町村：米子市、境港市、南部町)

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	6	215	3	323
日中一時支援事業	4	101	3	55